

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 28
2018. 8

TOPICS

1

「オープンキャンパス2018」を開催



本学は8月9、10日の2日間、津島・鹿田両地区で「オープンキャンパス2018」を開催しました。天候にも恵まれ、県内外から高校生や保護者ら約1万9千人が訪れ、“岡大ライフ”を体験しました。

全11学部とグローバル・ディスカバリー・プログラムが、それぞれプログラムを企画。各学部の紹介や入試方法の説明のほか、在学生が案内する研究室見学や、普段は公開していない場所が見学できるキャンパスツアー、在学生との交流会、校友会の活動紹介など、多彩な催しが開かれました。参加した高校生らは、学生生活について質問したり、メモを取ったりするなど、積極的な様子でした。

また、津島キャンパスの学生会館では入試方法や奨学金、留学に関する相談会も開かれ、多数の生徒や保護者が訪れました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7802.html

TOPICS

2

被災地応援企画

「岡大キャンパスリレーツアー」を開催

本学災害ボランティア支援センター(OVC)は8月20日、本学教育学部、日本財団学生ボランティアセンターと協働で平成30年7月豪雨により被災した中高生を招待し、本学の魅力を紹介する「岡大キャンパスリレーツアー」を開催しました。

農学部の研究室訪問では、果樹園芸学の福田文夫准教授がモモやブドウの果実発育のプロセスや栽培における問題点について、クイズを交えながら解説しました。講義の後は、高性能冷蔵コンテナ(0℃貯蔵)で収穫後10日間貯蔵したモモやブドウを試食。採れたてのようなジューシーさや甘みのある果物を食べながら、長期保存がかなうことで、生産者にとってどのようなメリットがあるのかを考えました。

教育学部の学生とOVCの学生スタッフらによる交流会では、大学での研究や部活動について積極的に質問していました。

中高生からは「普段話をするのができない大学生の先輩たちと話できてうれしかった」「農学部の圃場の広さに驚いた。参加して良かった」といった感想が挙がりました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7824.html

最近の大学の取り組み

SDGsの取り組みを発信するリーフレットを作成



本学はSDGsの取り組みを紹介するリーフレットを作成しました。「手をつなごう岡山」と題し、各学部のSDGsの取り組みを掲載しています。

8月9、10日開催のオープンキャンパスでは、本学を訪れた高校生たちにリーフレットを配布しました。また、津島キャンパスの附属図書館中央図書館前にパネルを設置。大勢の参加者が写真を撮影していました。

岡山大学公式Instagramでは、オープンキャンパスでパネル前で撮影していただいた高校生の皆さんの写真を公開しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7794.html

平成30年度岡山大学スーパーグローバル大学創成支援事業 外部評価委員会を開催



本学は8月8日、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の支援対象に選定された本学の構想「PRIMEプログラム：世界で活躍できる『実践人』を育成する！」の実施状況について、平成30年度の外部評価委員会を開催しました。

本学からは、榎野博史学長ら4人が出席。前年度の取り組み実績報告や意見交換を行いました。各委員からは、「事業における課題を精査し、7年目の中間評価も視野に入れた今後の事業の方向付けを行うことが必要。全学の取り組みから、各部局への内部化を行っていることは重要であり、そこで生まれたエッセンスをフィードバックして、全学の取り組みに発展させてほしい」といった意見が挙げられました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7825.html



「SDGsで拓く！スポーツによる地方創生」 シンポジウムを開催

スポーツによる地方創生を考えるシンポジウム(主催:おかやま地域発展協議体おかやまスポーツプロモーション研究会など、後援:岡山大学)が7月30日、創立五十周年記念館で開催されました。

オープニングでは榎野博史学長が「SDGsが導くイノベーション・シティとしての国際学都おかやま」と題して講演。岡山シーガルズ顧問の三村聡本学地域総合研究センター長も、スポーツを活かした地方創生の可能性について講演し、「市民が支えるクラブチームは地域経済を循環させるエンジンとなり得る」と強調しました。企業関係者、行政関係者、大学関係者など約250人が参加しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7776.html



熱中症予防に関する基本方針説明会を開催



高温が続く状況を受け、本学は校友会クラブ及び同好会幹部を対象に8月8日、今年度制定した「岡山大学の正課外活動における熱中症予防に関する基本方針」に関する説明会を一般教育棟で開催しました。約80人が参加しました。

全学教育・学生支援機構スポーツ支援室の鈴木久雄教授が、熱中症対策の状況や危険度の判定数値(WBGT)について説明。WBGTが31度を超える場合または、気温が35度を越える場合は、活動を中止するなどの基本方針を解説しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7797.html



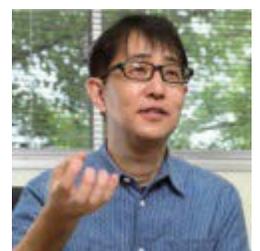
ウォーキング・ブームが少子化を招く？ ～昆虫からの示唆～

歩くのは健康に良いというのは常識です。ところが、よく歩くメスは、産める子どもの数が減ってしまう生物の例もありました。大学院環境生命科学研究科(農)の松村健太郎研究員と宮竹貴久教授は、コクヌストモドキという昆虫を材料として研究を行い、よく歩くという性質を20世代以上も続けて選んで育種繁殖させた結果、よく歩くように進化したメスたちが産んだ卵はサイズが小さく、飢えにも耐え忍べない個体へと進化していることを突き止めました。

これらの研究成果は、8月1日、欧州の進化生物学雑誌「Journal of Evolutionary Biology」のオンライン版にResearch Articleとして掲載されました。

少なくとも昆虫界では、日頃からよく運動するように進化した虫のメスたちは、早く歩くように進化した結果として、異性に出会える確率が上がるわけでもなく、子どもに投資できる配分も少なく、飢えなどのストレスにも弱いというコストを背負って生きていることが、今回の研究によって世界で初めて明らかになりました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id561.html



宮竹教授